

令和5年度 府立鳥羽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

全日制課程
令和5年4月7日

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自律する人間」の育成をめざし、教育方針「人間性」「先駆者精神」「克己」の理念をあらゆる教育活動に活かし、知・徳・体のバランスに配慮した生徒一人一人の学力の向上と個性の伸長を図り、地域社会から期待される人材の育成を図る。</p> <p>これからのグローバル時代を生き抜くため、次の6つの資質・能力を育む。</p> <p>①歴史をとおりて世界を俯瞰する力 ②多様な文化的背景を持つ人と協働する力 ③科学的に思考・吟味する力 ④新たな価値を創造する力 ⑤課題解決の枠組みをデザインする力 ⑥困難な状況を突破する力</p>	<p>学習指導：観点別評価は生徒が自己の成長を実感できる機会となったが、今後は評価規準や教員間での評価の整合性について継続して協議・検討する必要がある。1年普通科の総合的な探究の時間では、京都府立大学との連携により、生徒の思考力、表現力の育成をはかることができた。理系分野の進学先に対応できるカリキュラムについて、さらに検討を重ねる必要がある。</p> <p>生徒指導：基本的生活習慣の確立が、鳥羽高校の魅力の一つである「入学してから伸ばす」指導や進路実現につながっている。引き続き、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、教職員間で一貫した指導を継続する。</p> <p>人権教育：教職員対象の人権研修を含め、日常的教育活動を行ううえで、さらに人権意識を高める取組の継続が必要である。人権学習の内容によっては事前の教員研修や事後の丁寧な振り返りが必要である。</p> <p>進路指導：京都南ロータリークラブと連携した1年生対象のキャリア・ガイダンスは、大学進学だけでなく、働くことを意識させるキャリア教育として有意義な取組である。</p> <p>情報教育：ICTの効果的な活用について、教員・生徒双方が工夫しながら試行した。ICTの正しい活用を目指し、引き続き情報リテラシーを身につけるための指導を継続する。</p> <p>読書指導：国語の読書課題や総合的な探究の時間の資料探しで図書館利用を推進することができた。今後は、生徒が主体的に読書活動に取り組む活動を考える必要である。</p> <p>家庭・地域社会との連携：HP掲載や学校説明会における生徒のボランティア活動や実践発表等をとおりて、本校の教育活動を幅広く発信しているが、授業を大切に、部活動をしながら大学に行くことができる鳥羽高校の良さが保護者に十分に伝わっていない。発信方法を工夫する必要がある。</p>	<p>(1) 自己尊重の精神を基盤とする人権感覚を涵養し、規律ある中で互いに助け合い切磋琢磨する質の高い学習集団を作る。挨拶を大切に、対話（主張と受容）を重視することで主体的な思考を促す。</p> <p>(2) 学びを第一に学習・部活動等の教育活動を行う。ICTを効果的に活用しながら、学んだことを整理、体系・系統化、応用、共同思考する。</p> <p>(3) 社会との関連を重視しながらキャリア観を形成しつつ学力を伸長し、希望進路の実現を図る。</p> <p>(4) 「授業を中心とした学習だけで大学に行ける学校」をモットーに、教職員間で一致した受験指導を行う。</p> <p>(5) WWL事業実施校として、次の三つの重点項目について取り組む。</p> <p>①カリキュラム開発 ②BYODを活かした授業改善、教育的活用 ③グローバル教育の推進</p> <p>(6) 単位制の特長を活かしながら、新学習指導要領のカリキュラム及び共通テストを見据えた科目研究をさらに進める。</p> <p>(7) 部活動を通して、各部の目標達成をめざすとともに、自律する人間の育成と個性伸長を図る。</p> <p>(8) 本校の教育実践や生徒の活動を中学生や保護者に積極的に広報することにより、本校の教育活動への理解を深める。</p> <p>(9) 働き方改革を進め、生徒と向き合う時間をより多く確保する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	総括	成果と課題
学習指導	<p>単位制の特長を活かしたりベラルアーツ教育を推進し、生徒の学力・教養力向上を図る。</p>	<p>生徒の知的好奇心を高め、あらゆる教育活動を通じて思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に課題を設定し自学自習に取り組むよう指導する。</p> <p>「鳥羽の学びネットワーク」とICTを活用した教科横断的な活動により、学びの質や深まりを強化する。</p> <p>単位制及び観点別評価の実施による学習状況調査、授業評価、学力状況等の検証を行い、学科やコースの特色に応じた教育活動の改善を行う。</p>		
生徒指導	<p>ルールとマナーを守る態度を育成する。</p> <p>これからの社会づくりに積極的に貢献する態度を育成する。</p> <p>組織的にいじめの未然防止を図る。</p>	<p>基本的生活習慣の確立、安全指導及び問題事象の未然防止について、その目的・基本姿勢を確認し、教職員が一致した基準・方法で指導する。</p> <p>挨拶を交わす、正しい言葉を遣う、身だしなみを整えることは、マナーの基本であることを理解させ、実践できるよう指導する。</p> <p>生徒会、各種委員会、クラス活動、ボランティア活動などを通じて、協働する力を養う。</p> <p>部活動を通して、技能を修得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性・意欲の向上につながるよう指導する。チーム内で切磋琢磨し、より高い目標を設定し、突破する力を養う。</p> <p>ルールとマナーを守り、自他を尊重する人間関係を築き、違いを認めあう寛容な心を育てる。</p> <p>各種イベントやボランティア活動への積極的な参加を促し、社会貢献への意識を高める。</p> <p>いじめについての理解を深め、「いじめ防止対策推進法」「京都府いじめ防止基本方針」「鳥羽高等学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめ対策委員会を中心に組織的にいじめの未然防止、早期発見を図る。</p>		
人権教育	<p>あらゆる教育活動をとおりて人権教育を推進する。</p>	<p>自他を尊重し人権問題を自分ごととして考える精神を養い、多様化・複雑化する人権問題の解決に向けた人権教育を推進し、教職員研修を充実させる。</p>		
進路指導	<p>生徒一人一人の進路希望を実現する。</p> <p>職業観・勤労観を育成する。</p>	<p>分掌、教科、部活動との連携のもと、組織的な指導体制により、個に応じたきめ細かい進路指導を行う。</p> <p>望ましい職業観・勤労観を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけさせるため、計画的・継続的に進路指導・キャリア教育を行う。</p>		
情報教育	<p>タブレット等のICT機器を活用し、広く（グローバルに）、新時代（AI、Society 5.0）を主体的に、創造的に拓く態度を育てる。</p>	<p>情報モラル・情報リテラシーを身につけ、ICT機器を正しく効果的に活用することで、知識を体系・系統化、応用し、意見交流することができるようにする。</p>		
グローバル人材育成	<p>WWL事業実施校、グローバル・ネットワーク京都校として、グローバル・リーダーの素養を涵養する。</p>	<p>平常の授業に加え、国内外の人々との対話や協働活動をとおりて、多様性を尊重する態度及びグローバルな視野を持って思考・判断・表現する力を育成する。</p>		
保健・特別支援	<p>健康の保持増進と支援に必要な生徒の課題解決に必要な学校環境作りを進める。</p>	<p>検診等の結果を踏まえ、生徒の心身の健康の保持増進に努め、学校における保健管理、安全管理を適切に進めるとともに、支援に必要な生徒の教育的ニーズに応じて学習上、生活上の困難を改善する。</p>		
読書指導	<p>読書活動を推進する。</p>	<p>図書館からの情報発信や啓発活動、教科や総合的な探究の時間をはじめとする教育活動で、図書館利用を促進して読書活動を活性化し、豊かな教養と広い視野を育てる。</p>		
家庭・地域社会との連携	<p>家庭・地域・社会との連携と交流を積極的に行う。</p>	<p>HPをはじめ、説明会や出版物等を通じ、本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、本校への理解を深める。保護者向けデジタルツールを活用し、保護者へのタイムリーな情報発信を行う。</p>		
施設設備・文書・情報管理	<p>学習環境の質を確保する。</p> <p>個人情報に配慮した文書管理・情報管理を行う。</p>	<p>生徒の安全を確保するとともに、よりよい教育環境づくりに向け施設・設備の充実を図る。</p> <p>紙文書、デジタルデータとともに、個人情報に配慮した適切な文書管理・情報管理を行う。</p>		

評価の基準 A：十分達成できている。（目標以上の成果が得られている。） B：ほぼ達成できている。（ほぼ目標通りの成果が得られている。） C：達成できているとは言えない。（成果はあったが、目標は達成できていない） D：ほとんど達成できていない。（ほとんど成果が得られていない。）

学校運営協議会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	